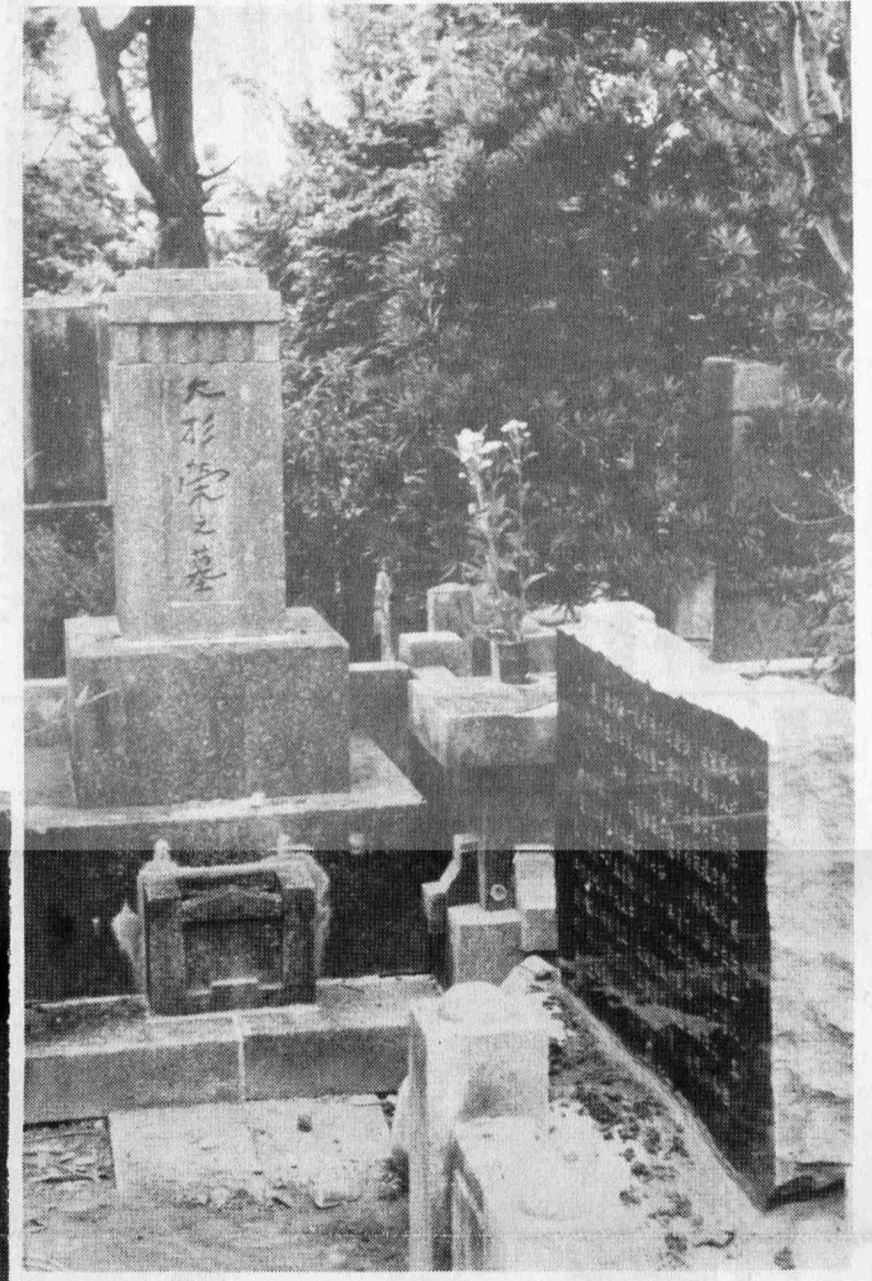
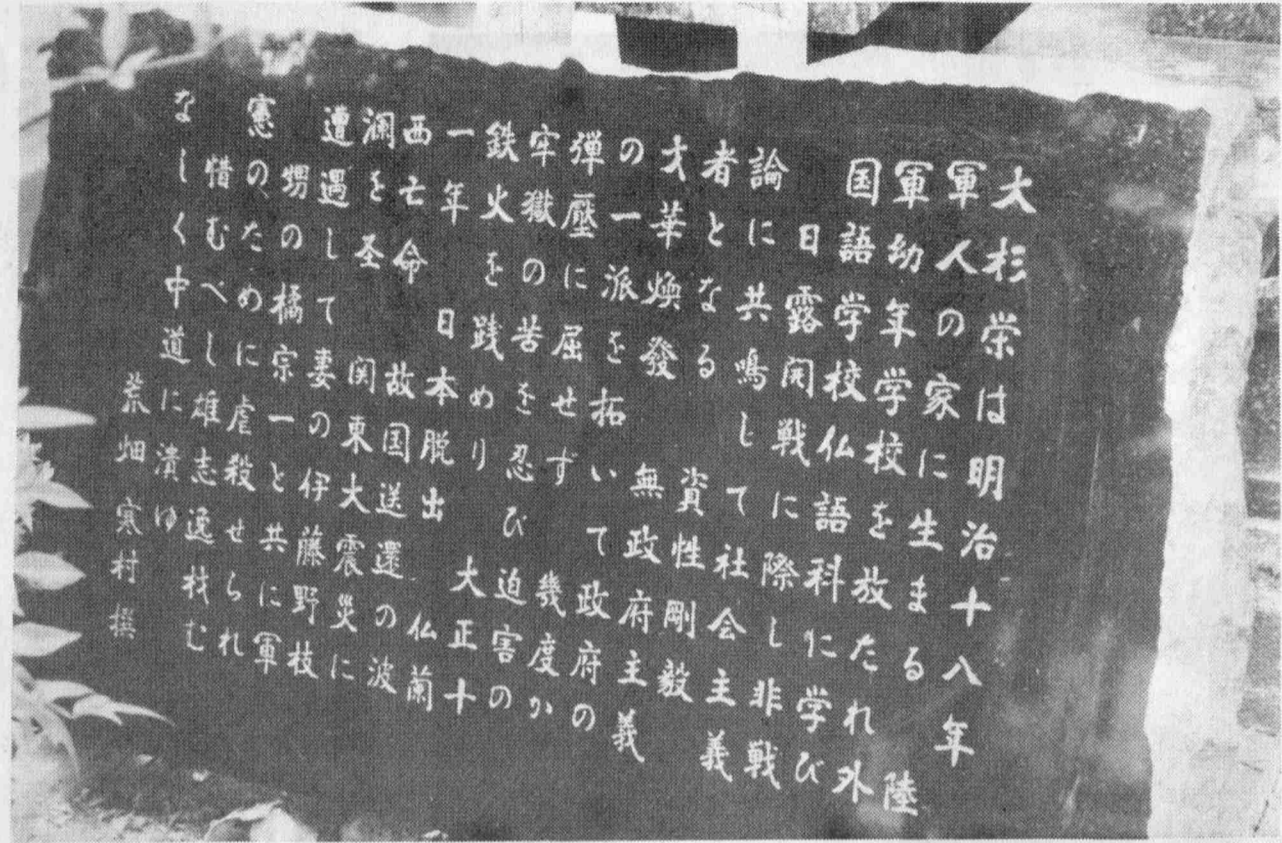


# 大杉栄らの墓誌 建立委員会

# ニュース

No. 4 1976・10・16

編集印刷発行人  
大杉栄らの墓誌建立委員会  
静岡県富士市伝法上中町2719  
富士地区一般産業合同労働組合内  
TEL 0545-52-2691



一九二二(大正十一年)九月十六日産された大杉栄(一八八五年一月十七日生)享年三十八歳(妻伊藤野枝(一八九五年一月二十一日生)享年二十八歳)甥橋宗一(一九一七年四月十二日生)享年六歳(の遺骨を翌年五月二十五日の遺地に収む)

一九七六年九月十六日  
大杉栄らの墓誌建立委員会

## 御礼の言葉

此の度は御多忙中をわざわざ墓前祭に、そして集会に御越し頂きましたこと厚く御礼申し上げます。

彼地に納められました三人が、あの様なことになりましてから、すでに半世紀以上経ちましたのに、全国各地より、多くの方々の暖かいお心をいただき、お陰様で立派な墓誌が建ちましたこと、心から感謝いたして居ります。あの時代、父や母たちより、もつとく苦しくきびしい中に犠牲となられた方々が数多くいらつしやることも同時に忘れ得ず、深く考えさせられます。

再び、その様な時代にもどらないように、という祈りをこめた碑でもあることを思い、遺族として個人的なためよりも、その歴史、

## 御報告

48年12月26日の朝日新聞に「大杉事件、橋少年の墓」として伝えられた、近藤さんの宗一碑保存の訴えを、翌年3月の「リペーロ」誌で知った富士地区一般産業合同労組では、49年の東京メーデーに組合員を派遣、近藤さんから直接保存運動の趣旨を聞こうとしたが、行違ってお会い出来なかった。

近藤さんの手紙を頼りに運動の側面協力を決め同年8月掘金を始め、同年中三三、三五〇円50年に三五、五〇〇円と寄金が集められたが、大杉等の事件、その背景を知ってもらおう事に重点を置き、機関紙「労働運動」に日本脱出記を連載、9号は全面「宗一碑への募金」呼びかけに当て、運動を進めていた。

之とは別に49年9月静岡で、社会党関係者を中心に、荒畑、近藤、瀬戸内の諸氏を迎えて50年祭が挙

その背景をなす力の恐ろしさを振り返るときを持たせて下さるものとして、あとにつく皆様と同じ立場で、私共も心に銘じ度く存じます。

此の墓誌建立に当りまして、実行委員長、近藤真柄様はじめ委員の皆様、地元県評の方々の御力添え、其の他実に多くの方々のお骨折、本当に有難うございました。

御参列頂きました方々、御世話になりました方々に、御一人、御一人に御挨拶致すべきところ、その期を逸し、失礼いたしましたことをおわび申し上げます。

言葉つたなく思うように申しあらわしうもございませんが、誌上拝借いたし、心から深く御礼申上げ、ごあいさつにかえさせていただきます。

九月十八日  
菅沼幸子  
野沢笑子

行され、瀬戸内さんの「野枝の名も宗一少年の名もないのが淋しい」との感懐がもたらされ、関係者の間で墓標に彫り込む事が考えられ、石屋とも相談したが、コンクリート製の為不可能と立消えとなった。その間名古屋の方は運動が急進展し50年9月15日宗一碑の移築を終り墓前祭が挙行された。此の時名古屋に集った人々の間で静岡の話が出され、近藤さんの意向として、前記の事情を知らなかった富士地区に山梨の遠藤氏を通じて協力要請が伝えられた。富士では自分達の力量を超えた事業と回答を保留、現地調査、費用調査等の予備調査と静岡県下の先輩、同志の意見も聞き、之を受諾、近藤さんに回答、併せて荒畑寒村さんに碑文を書いて頂くようお願いして頂く事を要請、他方県評、50年祭関係者にも支援を求め、4月建立準備会、5月に実行委員会を発足させ募金運動に入り、近藤代表の努力、瀬戸内委員の援助、県評、50年祭関係者の協力と、姫路向井氏の実行委以上の努力等の結果、北

は札幌、南は熊本まで全国各地、各界各層の主義主張を超えて四百余名の方々から合計百万円超の寄金を拝受、墓前祭には下関、尼崎、姫路、神戸、大阪、京都、奈良、岐阜、名古屋、群馬、千葉、埼玉、東京、山梨、神奈川、静岡県下各地から、平日にも拘らず、約百名の方々に御参集を頂き、有意義な記念集会を盛會裡に終了する事が出来、その模様はNHKテレビ「今日の静岡」での放映をはじめ朝日、毎日、読売、中日、東京、サントリー等各新聞に報導され事件の記憶を新にする事が出来ました。出来上った墓誌については、御異見や、御批判、御不満もある事と存じますが、私共関係者は、これでも「一所懸命」とはこんな事を云うのだからと自ら慰めて居ります。

それでも私共の自慢は「朗朗唱すべき」荒畑寒村さんの撰文をもつて飾り得た事です。

これも皆さんの御支援、御協力の賜物と深謝致して居ります。(寿)

## 会計報告 (51.10.3現在)

支出		収入	
墓誌建設費	¥ 220,000-	事務局経由	¥ 826,950-
同上書家謝礼	¥ 20,000-	県評経由及当日受付	¥ 213,000-
墓前祭費用	¥ 16,000-	利子	¥ 2,362-
会議費	¥ 32,560-	合計	¥ 1,042,312-
宿泊費	¥ 244,800-	差引残金	¥ 364,502-
印刷費	¥ 49,880-	○内訳	
通信費	¥ 38,060-	買掛金	¥ 151,712-
交通費	¥ 40,510-	振替口座	¥ 51,500-
雑費	¥ 16,000-	現金	¥ 17,138-
合計	¥ 677,810-	県評	¥ 144,152-

○残金は

- 当日の写真集…遺族を中心に関係者に配布
- カセットテープ(記念集会の録音記録)同上
- 建立委員会ニュースNo.4 1,000部印刷、賛助会員及び従前の配布方法
- 記念集會記録集(録音記録に建立委ニュースにのせた新聞記事等を集録、最終会計ものせて賛助会員に配布、500部印刷の予定)等の費用に充当させていただきます。